

## 第4回京丹波町総合計画審議会 会議結果（概要）

日 時 平成19年1月29日（月） 午後1時30分～午後4時40分

場 所 京丹波町役場 議場

出席委員 17人（欠席／3人）（早退／1人）

### 1 開会

〔会長あいさつ〕

昨年12月5日開催の第3回審議会において、これまで部会等で議論いただいた結果をまとめた基本構想素案についてそれぞれ意見をいただいた。それを踏まえ、修正したものを1月11日開催の正副会長会議でさらに検討を加え、修正したものについて本日の審議会でも再度検討をお願いしたい。基本構想は今後のまちづくりの方向性を示すもので、具体的な施策等については今後策定されていく基本計画または実施計画で定められる。そういった意味で、この基本構想案は、委員の皆様の思いすべてが盛り込まれているかどうかということは別として、皆様の意見が踏まえられた形での一定の方向が示されているのではないかと思う。本日の検討の結果、これで良いということになれば、町長へ答申したいので、よろしくをお願いしたい。

### 2 高校生との共同研究会の実施結果について

前回、時間の都合で先送りとなった審議会と須知高校生との共同研究会の内容等について、参加した6人の委員から報告があった。

### 3 基本構想（案）〔修正版〕について

事務局が修正箇所について説明した。

#### ○質疑応答

〔委員〕

26ページ、将来目標人口について。丹波・瑞穂地区の統合簡易水道事業計画では、給水計画人口が平成30年度で19,000人（和知地区を除く）である。この基本構想案の18,000人との整合性はあるのか。

→事務局／基本構想案の目標人口は、定住条件の整備等まちづくりの進展により平成28年度で18,000人ということで、前回の審議会に提示させていただいた。水道計画は、新規水源となる畑川ダムからの取水が可能となつてから10年後が計画の到達時期（目標値）となっており、目標年の違いによりその差が出たことになる。

[委員]

教育について見ると、38ページの人づくりのところ初めて教育という言葉が出てくる。先ほどの説明中、25ページの図に関連し、まちづくりの中心となる人づくりは教育である。また、基本計画で具体的に挙げられると聞いた。それに異議はないが、25ページの人づくりと教育とを結びつけるのは、少し難しい。

→事務局／基本構想案では、教育や保健・福祉、情報、道路交通、防災など施策は生活の基礎的な分野とし、それを充実させることは大前提であると位置づけている。主要プロジェクトでは、それを踏まえた上で、主として、京丹波町を個性化し、地方の時代の地域間競争に打ち勝っていくための方法を掲げている。その中であって、教育や保健福祉等も重要であることから項目は起こしているけども、主要プロジェクトという観点から整理しているため、それが弱く感じとられたのではないかと思う。基本計画では、教育をはじめ各分野について記述することとなる。

[会長]

(関連して) 25ページの人づくりは、学校教育というよりも、住民等の協働によるまちづくりを進める上での人づくりを意識して表現したものではないかと思うが。

→事務局／主にそうであるが、その過程としての教育、学校教育等成長段階ごとの教育を経て人材を育てていき、その方々に将来のまちづくりを担っていただくという考え方も含まれている。

[会長]

基本計画の柱(試案)として2番目に人材育成、教育が想定されているので、幼稚園、保育所等を含めて学校教育の部分がかかり出てくるのではと思う。

[委員]

「JR下山駅と和知駅周辺を…」とあるが、町民は、ほとんど園部駅からJRを利用している現状がある。電車の本数は1時間に1本であり、今の時代に1時間も待てない。もっと本数が増えれば、京都市内への通勤も苦ではなくなるのではないか。官で赤字だったが、民が本数を増やして黒字に転じた例がある。もっと便利になるような働きかけが必要である。

→事務局／住民の盛り上がり等により、みなさんと一緒には働きかけていきたい。

[委員]

JR下山駅の電車と町営バスの乗り継ぎが困難である。

→事務局／改善に努める。

#### 4 答申について

答申文（案）を提示した。

〔会長〕

この後、細かい文言の整理は会長と副会長に任せていただいて、大まかなことはこれでよいか。（委員／異議なし）

また、答申は、町長の予定と調整して、会長と副会長で行ってよいか。（委員／異議なし）

#### ○質疑応答

〔委員〕

（将来目標像の）丹波高原文化の意味がわからない。伝統と文化ならわかる。伝統が大事だと思うが、それをなくして文化を言えるのか。

→事務局／食、言葉、人情、風土などの文化、すなわち京丹波町の生活文化等すべての文化を丹波高原の文化として、魅力を高め、それをPRしていく、売り出していく。兵庫県を含め広い範囲を「丹波高原」をいうが、京阪神から近距離、特に京都に近いイメージを持たせながら、丹波高原の中心はここだ（京丹波町だ）と訴えるという意味から「丹波高原文化の郷●京丹波」とした。

〔会長〕

伝統の積み重ねがひとつの文化を形成していると考えてもらえばよいのではないかと思う。この内容で答申させていただくのでよいか。（委員／異議なし）

委員の思いすべてが入っているかという点と難しいが、方向性としては入っているのではないかと思う。町長への提出は案であり、決定は町や議会になる。その後、基本計画について議論をお願いすることになる。

#### 5 総合計画策定アドバイザーから

京都府立大学の宗田好史助教授から、基本構想案とこれに沿った今後のまちづくりへの期待についての講演、基本計画案策定に向けての助言などがあった。

#### 6 今後の審議会について

〔事務局〕

基本構想案の答申を受けた後、町で調整し、町議会に提案する。議決を受けると基本構想が決定することとなる。次の作業である基本計画の策定は、部会ごとに担当の分野

(施策)について議論していただきながら取り組んでいきたい。審議会(または部会)の開催は年度中と来年度前半にそれぞれ2~3回、それに合わせて正副部会長会議を開く予定にしている。次の審議会は2月下旬に開催することで調整したい。

[会長]

基本構想の段階で部会ごとにいろいろ議論はしたが、専門分野にかかわらず全体について議論してきた。基本計画については、三つの部会それぞれの専門分野を中心に皆さんの思いや知恵を出していただくことになる。

町長から諮問を受けたのは基本構想についてであった。基本計画では立場は変わるが、審議会の意見を反映していただくようお願いする。

基本構想案をいつの議会に提案するのか。

→事務局/3月に入ると定例会がある。都合がつけば、臨時議会での提案も考えられる。できる限り早い段階で決定させていきたい。

## 7 閉会

[副会長あいさつ]

「丹波高原文化の郷●京丹波」というコンセプト、キーワードは最も大事であると毎回申し上げているが、宗田先生からは言葉では非常に説明しにくい部分を説明いただいて、何とかイメージがわかったという感じである。個人的にはこれをイメージ化して、30秒、60秒の映像で基本イメージをつくり上げるべきだろうと思う。また、他の市町や観光協会がポスターを作っている。本町が作るとしても「丹波高原文化の郷●京丹波」という基本を踏んだ上で表現していくというのがマーケティングのプロセスである。

会長の発言にもあったように、この基本構想案は、皆さんの意見すべてを含んでいるとは言えないが、基本的な考え方としては、まとまったと思う。ご多用中のところご出席いただいてありがたく、お礼申し上げます。